

◆ 今週のコメント

- ・ 第33週は、お盆の期間で休院している医療機関もあり、例年、報告数が減少する傾向がみられます。本週の定点医療機関からの報告数は224例で、前週343例の約6割程度の報告となっています。
- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 30歳代)あります。症状は下痢, 粘血便で、推定感染地域は国内です。本年の累積報告数は12例となっています。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(女性, 30歳代)あります。本年の累積報告数は4例となっています。推定感染地域は国内で、推定感染原因は不明です。本疾患は、未だその発生機序が明らかになっていないことから、届出された場合に菌株の提供及び調査票等の記入を依頼することがありますので、ご協力をお願いいたします。

◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.98(40例)で、第30週(7月21日～7月27日)以降、4週連続で増加しており、本年度で最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 4例(肺結核 3例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 252例(肺結核 127例, その他結核 64例, 潜在性結核感染者 61例)うち喀痰塗抹陽性 62例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

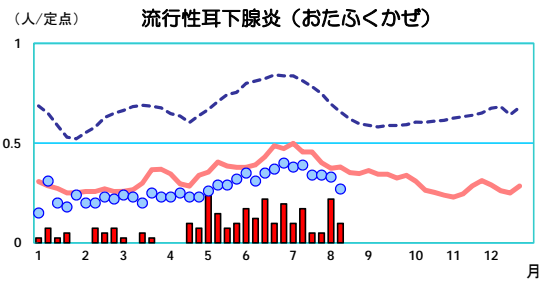
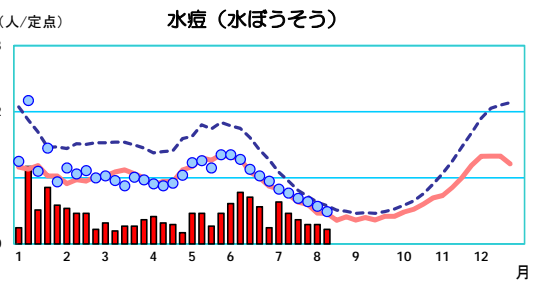
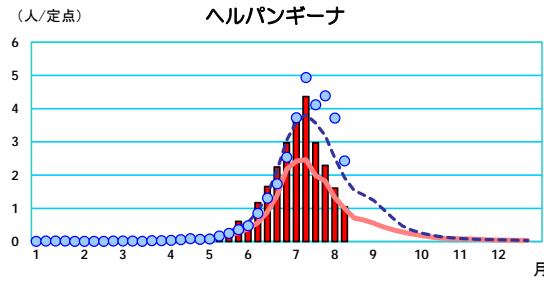
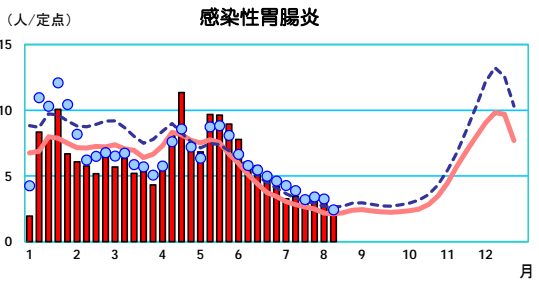
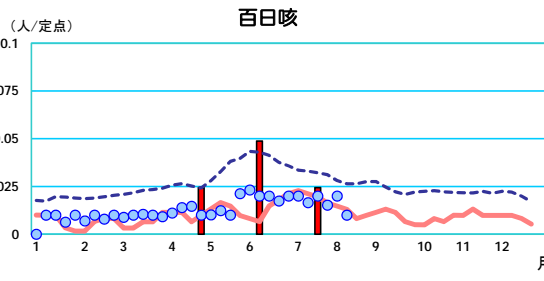
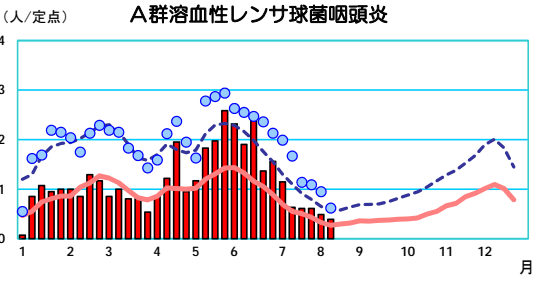
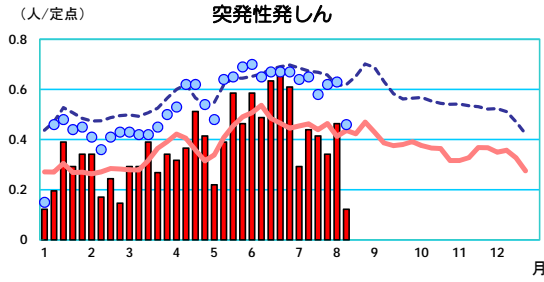
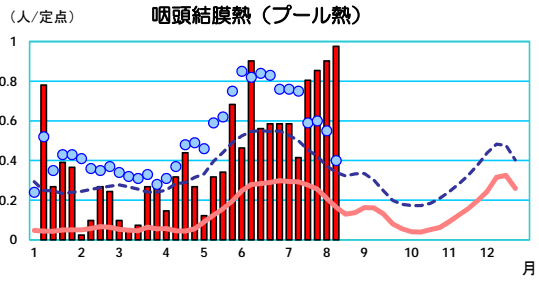
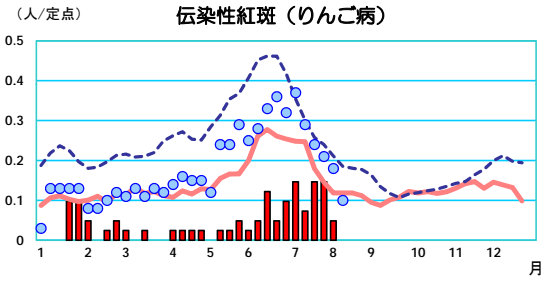
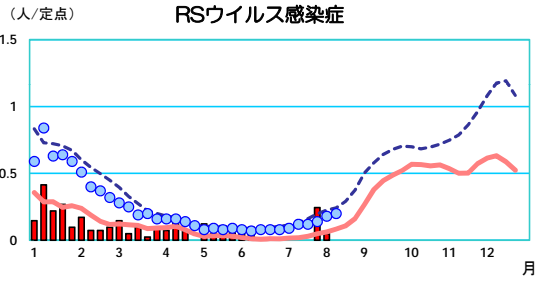
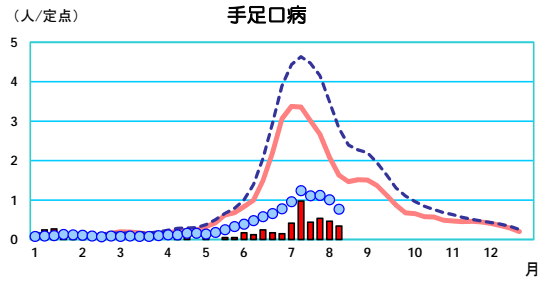
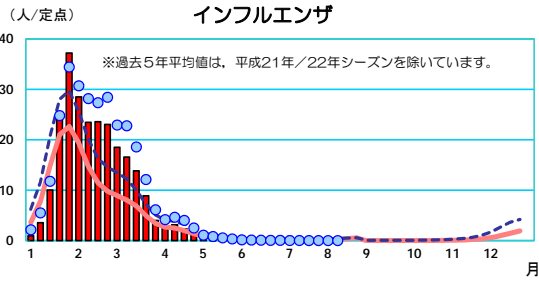
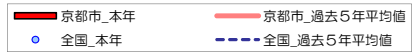
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.22	91
	② ヘルパンギーナ	1.05	43
	③ 咽頭結膜熱	0.98	40
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	16
	⑤ 手足口病	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

(注)京都市のデータは、平成26年8月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



第33週(8月11日～8月17日)トピックス: <咽頭結膜熱>

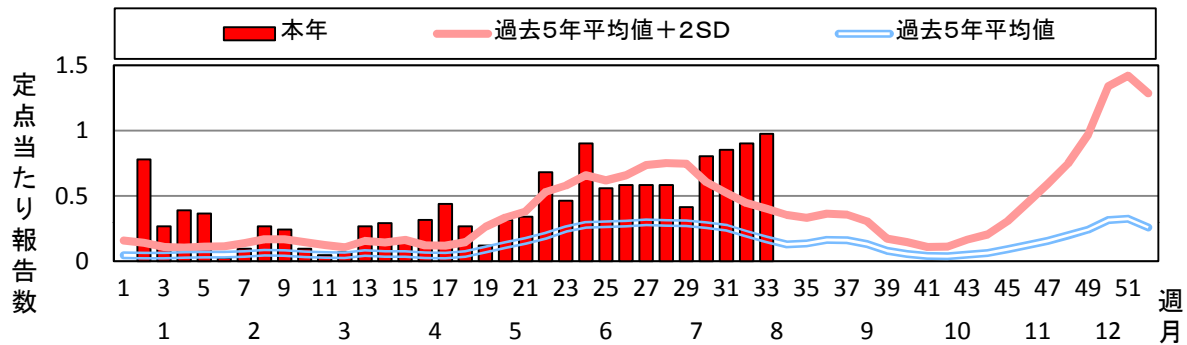
咽頭結膜熱の定点あたり報告数は0.98(40例)で、第30週(7月21日～7月27日)以降、4週連続で増加しており、本年で最も多い報告数となっています。また、「過去5年平均値+2SD(*)」を大きく上回っており、過去5年間の同時期と比較して最も多い報告数となっています。

咽頭結膜熱は、例年、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月に流行のピークを迎えます。昨年は6月に流行のピークを迎えた後、いったん落ち着きましたが、11月以降増加に転じ12月に最大の報告数となりました。本年に入ってから過去5年平均値を上回る状態が続いており、また「過去5年平均値+2SD」を約半数の週で超えていることから、これまでも当トピックスで度々取り上げて注意喚起をしています。さらに報告数が増加する可能性がありますので、今後の発生状況にいつそうの注意が必要です。

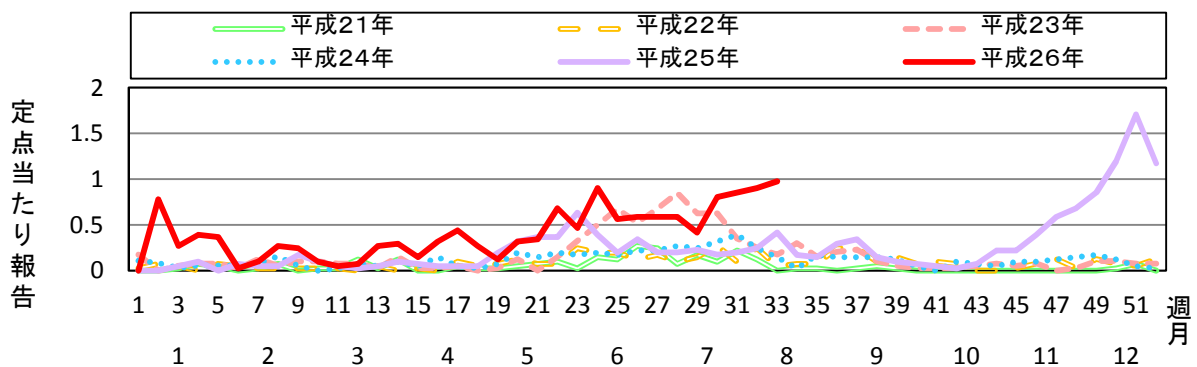
年齢階級別では、1歳が11例(27.5%)で最も多く、次いで4歳及び6歳 各6例(15.0%)、2歳及び3歳 各5例(12.5%)となっています。小児の集団生活施設である保育所、学童施設等で集団発生する可能性も考えられますので、普段から手洗い、うがいを正しく行うことが重要です。

(*)SDとは標準偏差のことで、データのばらつきの大きさを示す尺度です。下のグラフにおいて、赤の棒グラフ(本年の定点あたり報告数)がピンクのライン(過去5年平均値+2SD)を超えているときには、過去5年間と比較してかなり多いことを意味しています。

本市の定点あたり報告数の推移



本市の過去5年間との週別比較



年齢階級別割合の推移

